

101

はいくにはきごをかならずいれる。

102

宝<sup>たから</sup>ものをさがしもとめる。

103

もくてきやわだいにそつてはなしあう。

104

ちゅうもんひんをはいたつぎにとどける。

105

きのきりかぶにことりがとまる。

105	104	103	102	101
株	届	沿	探	俳
木の切り株に小鳥が止まる。	注文品を配達先に届ける。	目的や話題に沿って話し合う。	宝物を探し求める。	俳句には季語を必ず入れる。

106

いろいろな  
かんばんが  
ならぶ  
しょうてんがい。

107

バスの  
ざせきに  
すわる。

108

せいだいに  
パーティー  
ひらかれ  
もりあがる。

109

えいがかんの  
にゅうじょうけんを  
かう。

110

せんもんかの  
いけんを  
きく。

110	109	108	107	106
専	券	盛	座	看
専門家の意見を聞く。	映画館の入場券を買う。	盛大にパーティー開かれ盛り上がる。	バスの座席に座る。	いろんな看板が並ぶ商店街。

111

だいきぼなへいじようきようのふくげんもけい。

112

たんじゅんめいかいなせつめいでよくわかる。

113

かいしやにつとめるちちはでんしゃでつうきんする。

114

千<sup>かん</sup>ちようだ。しお千<sup>ひ</sup>狩<sup>が</sup>りにいこう。

115

からだをささえるほねぐみが「こっかく」。

5	4	3	2	1
骨	潮	勤	純	模
体を支える骨組みが「骨格」。	干潮だ。潮干狩りに行こう。	会社に勤める父は電車で通勤する。	単純明快な説明でよく分かる。	大規模な平城京の復元模型。

116

てつぼうのさかあがり  
ができた。

117

あついたにドリルで  
あなをあける。

118

こうそうビルが  
たちならぶ  
だいとかい。

119

「ふんき」とは、  
こころを  
ふるいたたせる  
こと。

120

よていびを  
さきに  
のばす  
ことが  
「えんき」。

120	119	118	117	116
延	奮	層	穴	棒
予定日を先に延ばすことが「延期」。	「奮起」とは、心を奮い立たせること。	高層ビルが建ち並ぶ大都会。	厚い板にドリルで穴を開ける。	鉄棒の逆上がりができた。



125

ひんこんでこまっているひとびとをたすける。

125		

124

ドローンを巧みにあやつりそう縦する。

124		

123

あたたかいひひょうのことはをもらった。

123		

122

こうてつでつくられたでんしゃのせんろ。

122		

121

せんとうは、ぜにを払ってはいるふ呂。

121		

たしかめ		
25		
名 前		

1 2 5	1 2 4	1 2 3	1 2 2	1 2 1
困	繰	批	鋼	銭
貧困で困っている人々を助ける。	ドローンを巧みに操り操縦する。	温かい批評の言葉をもらった。	鋼鉄で作られた電車の線路。	銭湯は、銭を払って入る風呂

126

ふた桁<sup>けた</sup>しようにをおさめ、しゅうにゆうがばいぞうしたせんしゅ。

127

よんいかはすて、ごいじょうはきりあげるししやごにゆう。

128

ふくそうをなつのよそおいにする「ころも替<sup>か</sup>え」。

129

みずのながれでるみなもとを「げんりゆう」という。

130

きりつをまもってたのしいがつこうせいかつ。

1 3 0	1 2 9	1 2 8	1 2 7	1 2 6
律	源	装	捨	収
規律を守って楽しい学校生活。	水の流れ出る源を「源流」という。	服装を夏の装いにする「衣替え」。	四以下は捨て、五以上は切り上げる四捨五入。	二桁勝利を収め、収入が倍増した選手。

131

じゅうじゆんにしじにしたがうかわいいあいけん。

131

132

132

しゃっきんのへんさいがぜんぶすんだ。

133

133

ちよしゃのにんきでほんのうれゆきがいちじるしい。

134

134

「じんけん」は、ひとがひとらしくいきるけんり。

135

135

つきにへいきんごさつのほんをよむ。

135	134	133	132	131
冊	権	著	済	従
月に平均五冊の本を読む。	「人権」は、人が人らしく生きる権利。	著者の人気で本の売れ行きが著しい。	借金の返済が全部済んだ。	従順に指示に従うかわいい愛犬。

136

はらが  
いた<sup>い</sup>。ふくつうだ。

137

たてとよこ、じゅうおうにはし<sup>し</sup>るとかいのどうろ。

138

ぜい<sup>ぜ</sup>きんをおさめることが「のうぜい」。

139

ひそかにつたえられたしん<sup>しん</sup>びのでんせつ。

140

からだとこころはみっせつにかんけいしている。

139	138	137	136	135
胸	裏	済	認	善
胸の周りの長さを測る胸囲測定。	表と裏、裏側を「裏面」という。	借金の返済が全部済んだ。完済だ。	「認可」とは、願いを認めて許すこと。	善いことは進んでやろう。「善は急げ」だ。



141

おもてせんけやうらせんけはさどうのりゅうは。

142

みずの湧<sup>わ</sup>きでるいずみ。そのみずがあついとおんせん。

143

ほうにちしただいとうりようがげん爆<sup>ばく</sup>しりようかんをおとずれた。

144

きぬいのようなすじぐもを「けんうん」という。

145

じよせつ・じよそう、じよは「とりのぞく」といういみ。

1 4 5	1 4 4	1 4 3	1 4 2	1 4 1
除	絹	訪	泉	派
除雪・除草、除は「取り除く」という意味。	絹糸のような筋雲を「絹雲」という。	訪日した大統領が原爆資料館を訪れた。	水の湧き出る泉。その水が熱いと温泉。	表千家や裏千家は茶道の流派。

146

しんこうじゅうたくが  
たちならぶ  
まち。

147

もちごめを  
じょうきで  
お餅つき。

148

じんじゃの  
けいだい  
は  
しんせい  
な  
ばし  
よだ。

149

はりの  
ように  
はが  
ほそながい  
きは  
しんようじゅ。

150

きんぎんの  
ざいほうを  
まん載さいした  
たからぶね。

150	149	148	147	146
宝	針	聖	蒸	宅
金銀の財宝を満載 <small>さい</small> した宝船。	針のように葉が細長い木は針葉樹。	神社の境内は神聖な場所だ。	もち米を蒸気で蒸してお餅 <small>もち</small> つき。	新興住宅が建ち並ぶ町。

151

せっかいせきははいろをしたいしだ。

152

やさしくて、ぎのうもすぐれたゆう秀<sup>しゅう</sup>なひと。

153

らんざつなつかいかたをしてへやがみだれる。

154

「せんしよく」とは、ぬのやいとをそめること。

155

「よきん」はぎんこうにおかねをあずけること。

155	154	153	152	151
預	染	乱	優	灰
「預金」は銀行にお金を預けること。	「染色」とは、布や糸を染めること。	乱雑な使い方をして部屋が乱れる。	優しくて、技能も優れた優秀 <small>しゅう</small> な人。	石灰石は灰色をした石だ。

156

てんのうのく<sup>ら</sup>いをし<sup>り</sup>ぞく<sup>こ</sup>とが「た<sup>い</sup>い」。

157

すん<sup>ぽ</sup>うをは<sup>か</sup>つたらお<sup>な</sup>じな<sup>が</sup>さ<sup>だ</sup>った。

158

し<sup>や</sup>てい<sup>き</sup>距離<sup>り</sup>に<sup>は</sup>い<sup>っ</sup>た<sup>え</sup>獲<sup>え</sup>もの<sup>を</sup>や<sup>で</sup>い<sup>る</sup>。

159

で<sup>ん</sup>じ<sup>し</sup>ゃ<sup>く</sup>を<sup>つ</sup>く<sup>つ</sup>て<sup>じ</sup>っ<sup>け</sup>ん<sup>す</sup>る。

160

て<sup>ん</sup>の<sup>う</sup>が<sup>す</sup>ん<sup>で</sup>お<sup>ら</sup>れ<sup>る</sup>こ<sup>う</sup>き<sup>よ</sup>。

160	159	158	157	156
皇	磁	射	寸	退
天皇が住んでおられる皇居。	電磁石を作って実験する。	射程距離 <small>きょり</small> に入った獲物 <small>え</small> を矢で射る。	寸法を測ったら同じ長さだった。	天皇の位を退くことが「退位」。



161

てんのうのおきさきさまがこうごうへいか。

162

せんそうのしゅうけつをつげた てんのうへいか。

163

こっかいにはいろんなとうがある。

164

ないかくそうりだいじんになんめいされる。

165

きしょうちょうの てんきよほうを きく。

165	164	163	162	161
庁	閣	党	陛	后
気象庁の天気予報を聞く。	内閣総理大臣に任命される。	国会にはいろんな党派がある。	戦争の終結を告げた天皇陛下。	天皇のお后様が皇后陛下。

166

訴え<sup>うった</sup>や あらそいを さばくことが 「さいばん」。

167

けんぽうに かかれた ふせんの 誓<sup>ちか</sup>い。

168

それは じこまんぞくに すぎない。

169

うんどうかいの よくじつは からだが おもい。

170

やまの いただきを 「さんちよう」という。

170	169	168	167	166
頂	翌	己	憲	裁
山の頂を「山頂」という。	運動会の翌日は体が重い。	それは自己満足に過ぎない。	憲法に書かれた不戦の誓い。 <small>ちか</small>	<small>うった</small> 訴えや争いを裁くことが「裁判」。

たしかめ	35	名前	
------	----	----	--

名前

--

[illegible]

いたって  
難しいことを  
「し難なんの  
わざ」という。

[illegible]

172	げきじょうで にんぎょうげき をはっぴょうした
-----	-------------------------------

[illegible]

73	がつきをかなで、こう響きよくをえんそうする。
----	------------------------

[illegible]

174	せんせい の しき に あ わ せ て が っ し ょ う す る。
-----	--

[illegible][illegible][illegible]

「そのけん、うけたまわりました。」としょう諾だくした。

176	175	174	173	172	171
承	衆	揮	奏	劇	至
「その件、承りました。」と承諾 <small>だく</small> した。	国会の衆議院と参議院。	先生の指揮に合わせて合唱する。	楽器を奏で、交響 <small>きやう</small> 曲を演奏する。	劇場で人形劇を発表した。	至って難しいことを「至難の技」という。